

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102188		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホームあいの街篠ヶ瀬 (東ユニット)		
所在地	静岡県浜松市東区篠ヶ瀬町345		
自己評価作成日	平成24年8月1日	評価結果市町村受理日	平成25年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/z/z/index.php?action_kounyou_detail_2010_022_kani=true&lievsvoCd=2277102188-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念「笑顔の見えるケア」の元 職員一同一丸となり取り組んでいます。昨日も会社の運動会において、他施設から本当に元気だねという声が聞こえました。ウチではありえないとも、いつまでも自立して欲しいと願って健康面にも気を付け、季節を感じてもらいながら春の花見又花鳥園への外出、秋祭りクリスマスと過ごしています。その人らしく生きて欲しいと願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中、外周を山茶花と利用者が植えたパンジーの花々に囲まれた中に施設はありません。殺菌徹底消毒、時間をかけてしっかり自力で完食する食事、レクでの体操や元気な声出し、細やかなバイタルチェックで変化を見逃さない工夫などで、近年、病氣入院や風邪をひく利用者がいないことが自慢です。地域の祭りとコラボして3年目になる秋祭りは、250人程が参加するなど年々盛会になり、歌や踊り、食べ物のふるまいなどで楽しい交流の輪が広がり、地域のセンター的な役割を担いつつあります。職員の定着も高く、またベテランの管理者のもとで、しつこく教育の徹底が図られているため、施設は今、成熟期にあると言えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念、社是の唱和を毎日している。	法人理念のほかに「笑顔の見えるケア」を職場理念としていて、毎日の朝礼で唱和しています。職員が利用者を第一に思い、優しく丁寧に接しているため、利用者の笑顔が絶えず、理念の浸透が充分できていると管理者は感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩途中にあいさつをしたり、イベントに参加したり秋祭りは一緒にしている。	自治会に加入し回覧板も廻ってきていて、近所からは差し入れもあります。本年度からは中学生の福祉体験を受入れ、彼らからの感謝の手紙は職員に大きな励みになっています。地域の祭りやコラボして3年目になる秋祭りも年々盛況で、地域のセンター的な役割を担いつつあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に見えられた人に対応。中学生の体験学習への受け入れ等を通して理解又発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、その時々情報の発信又は公的機関、町内会、包括から意見、情報をいただいている。	運営推進会議は2ヶ月に1度、自治会長、民生委員、市担当者、地域包括、家族代表の構成で開催しています。会議後開催したクリスマス会は利用者への理解を深める機会となりました。会議は有効な情報交換の場として、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に運営推進会議に出席いただき、事業所の実績取り組みについて話している。市主催の減収にさんか。	運営推進会議には市担当者、地域包括が毎回参加し、案内状や会議議事録は出向いて手渡しするなど、積極的な取り組みがあり協力関係が築かれています。毎月介護相談員の訪問があり、利用者の話に傾聴し、節分時の来訪には行事に参加するなど頼もしい存在です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を毎年行い又毎朝の朝礼時、報告相談を受けその都度伝えている。	「身体拘束ゼロ宣言」をしていて、玄関の施錠はありません。本部でのリーダー研修を受け、内部研修に繋げて職員の意識統一を図っています。毎日の朝礼でも身体拘束について伝達し合い、無意識のスピーチロックや行動抑制の減少を目指しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて、徹底しその都度注意、指導している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて勉強、過去成年後見人を活用していた人もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず重要事項、契約書の説明をし、変更がある時には説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議には意見を聞き各機関に要望があれば伝えている。ケア計画の説明時にも伝えている。	運営推進会議の家族代表や面会時の家族から、薬の処方や医療連携について意見や要望が聞けています。行事には全家族が参加し、利用者・家族・職員が一体化した楽しみの集いとなっています。家族同士の関係も発展し、安心に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議には意見を出し合っている。又現場にてその都度意見を聞いている。人2回はイベントで来る家族とは話し、要望や意見は聞いている。普段の面会時に説明も。	月1回の職員会議では全員が意見を出すのが恒例であり、また、研修ノートでも勤務シフトや行事への意見・要望が言える機会があり、吸上げる仕組みがあります。年に1度の個別面談があると共に、職員同士の気付きを、その場で言いあえる関係も出来ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。有給希望休の確認、又施設長会議にても習得させるよう連絡を受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修 外部研修への参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加、近くの小規模多機能又はサ高住への、見学、交流、情報交換等をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント作成時には必ずお会いして本人の状況確認をし傾聴する。その後職員に伝達し共有して対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、見学時きちんと傾聴しご説明して納得していただいてからご入居いただいている。又入居後もその都度対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時様子観察している。その都度職員間で共有問題点があれば対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者は信頼関係にあり、共に楽しみ共に過ごし、安心して生活してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族はいつ来ていただいても良い状態にありイベントへの積極的な参加をしていただいている。その都度ご要望も聴かせてもらい関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設にて行う行事に家族知人積極的に参加してもらい関係の継続に努めている。	家族の訪問が頻回にあり、一緒の外出も盛んに行われていて、買物や外食を楽しんでいます。週に1~2回フィットネスジムに通ったり、また、ショッピングモールで買物を希望したり、新聞購読をする利用者もいて、社会参加への支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がパイプ役になりアクティビティー時、外出時お互い助け合い支えあってもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去退去した家族からご紹介いただいたり、御亡くなった時にもご連絡いただいたりしている。又店舗でお会いした時などにも情報交換している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で希望等あれば残しておく。又危険がない限りは、自由にお好きな所にいけるようにしている。	入所前には家庭に向いて生活史や家族観などのバックグラウンドを体感し、思いや暮らし方の希望を把握する努力をしています。購読している新聞で見たフィットネスに興味を示し、家族と相談の上ジムに行くことが叶ったことなど、意向が反映された好例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートフェースシートにキッチンと記載し確認、共有できるようにしてある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々キッチンと経過記録付け、朝礼にて共有その都度その人に一番良いと思われる状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、モニタリング、ケア計画書等により共有し現状に即したサービスが出来る様に勤めている。	年に2回、モニタリングをし、全員でカンファレンスを行い、作成担当とケアマネージャーが「施設サービス計画書」と名付けられた介護計画書を作成しています。時にはサービス会議に参加する家族の意向も、可能な限り吸上げられたプランとなっています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、生活管理表の記入職員間で共有連絡ノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ柔軟な支援をし時には家族にも協力いただき取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力、地域の人々の助け、公園の利用、大型スーパーへの散歩、御宮等安全で豊かな生活が出来る様工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診希望の方は往診していただき、受診希望の方は、なじみの医院に行っていただく。緊急を要する場合は職員にて対応	以前からのかかりつけ医には家族の介助を原則としていますが、緊急時には職員が支援しています。協力医は24時間対応で、月2回の往診もあるため主治医変更した利用者も多くいます。今年度から週2回訪問看護が始まっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問が出来る様になったので必要に応じて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医の対応者が多いのでその都度相談適切なアドバイスをいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスをし、状態の共有をして家族に向けても、発信共有している。ご利用者にとって良い方法を皆で探していく。	かなり以前に看取りが2件ほどありましたが、現在重度化への取り組みもありません。今後、ターミナルケアは原則として行う予定はありませんが、医療連携などでの終末期の在り方については模索を続けていく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網、マニュアルの整備 研修にて共有夜間は施設長が24時間対応。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと防災、火災訓練地域との協力体制の強化を図っている	年2回、防災訓練を実施しています。内1回は消防署の立ち合いの下で行われ、防災意識の高揚に努めています。夜間想定避難訓練を次回計画し、少人数対応での取組みを予定してします。備蓄3日分と防災頭巾、ヘルメットを備え有事に備えています。	AED講習会開催などで地域へ来訪を呼び掛け、訓練参加を叶えて協力関係がより堅固に築かれることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務に基づいたプライバシーの保護や人格の尊重、言葉使いに注意しと湯礼では、確認対応	名前には、さんづけを基本にしていて、常に利用者の尊厳に配慮することを心がけています。機能維持のためにも、時間がかかっても出来ることは自分でやってもらう方針で、真の人格を尊重した取り組みを行っています。本部接遇マナー研修は年1回あり、内部研修で共有化しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを傾聴し希望が通るよう、自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、アクティビティー、入浴出来る限り意に沿う事が出来る様に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る人はご自分でしてもらい、自己決定出来ない人にはその人らしい装いをと努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物時動向していただいたり、好みの物をお聞きしたりして、楽しみを増やし、出来る事はしていただいている。	購入先を駆使し新鮮な食材を少しでも豪華にという心配りが、彩り鮮やかな食事に昇華しています。週1回は刺身もあり、時にはメロンも提供され、利用者最大の楽しみである食事の充実ぶりから、風邪をひく人もいない健康生活に繋がっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活管理表にて把握し、支援し医師にも協力いただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施、自身で出来る人には声かけをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活管理表にて排泄の記録をし、リズムや健康状態の把握に努めている。出来るだけ自身にての排泄を促している。	自力で排泄できる利用者が多く、半数以上は日中、布パンで快適に過ごしています、脳梗塞での入院から帰所後、繊細な見守りで自立排泄が叶った例もあります。自力歩行が難しい利用者をトイレへと歩行介助する姿も視認しました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の工夫、状態に応じて乳酸飲料の摂取体操等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個々の希望を出来る限り取り入れている。	殆どの利用者が2日に1度の入浴していて、外出の多い利用者の毎日入浴も叶っています。マンツーマン介助であるため、心が開いた利用者の意向や思いが聞けています。2人毎に湯を張りかえ、足拭きマットも個別対応で水虫予防するなど清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠がとれるように工夫している。夜間睡眠障害が起きないように、適度な運動散歩等工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の防止に努め、的確な服薬が出来る様に支援すると共に症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、たたみ、生け花、花植え等その人の役割、楽しみ等が持てる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援しているドライブ買い物、花見、イチゴ狩り、大きな公園等に出かけている家族との外出	食材の買物に同行したり、散歩コースにある神社で参詣するなど日常的な外出支援がなされています。ドライブでは、フラワーパークでの花見、苺狩り、回転寿司などに出掛けていて、特に花鳥園で鳥たちを愛で、バイキングで舌鼓を打った楽しい一日は印象的です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	心身に影響が出るような方については所持してもらう。又外出時持って行かれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ対応している。手紙等もお出しする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感 季節感 風等を取り入れ又毎日の掃除は欠かさず気持ち良い空間作りに努めている。	天井の自然採光が特徴で、柔らかく穏やかな空間に、利用者とデコレートしたクリスマス飾りが季節を演出しています。温度湿度計で管理され、毎朝の掃除・換気と次亜塩素酸噴霧器での頻回な消毒で快適に仕上がった環境のなか、洗濯物を畳んでいる利用者の姿がありました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	危険のない限りは自由に動いてもらっているため、個々の部屋に気の合った人同士で入ったり、たたみの所に座ったりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、好みの物を置き、居心地良く生活出来るようにしてすごしている。	カーテン、エアコン、クローゼット、洗面台が備えつけて、ベッドは馴染みのものを持ち込んでいます。畳マットで和風の部屋作りをしたり、季節の飾りを壁にかけたり、また筆筒、テレビ、家族写真や仏壇を持ち込んで生活感を楽しんでいる利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、補助棒、手すりの活用又部屋によっては、名前等を入れて工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102188		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホームあいの街篠ヶ瀬 (西ユニット)		
所在地	静岡県浜松市東区篠ヶ瀬町345		
自己評価作成日	平成24年8月1日	評価結果市町村受理日	平成25年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2277

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成24年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットの平屋作りの建物であり安全に安心して生活出来る。食事はすべて手作りで安心して召し上がれます。笑顔の見えるケアを理念とし、出来る限り多くのご利用者と共にイベント、外出に参加している。季節を出来るだけ感じていただけるように、春のイチゴがりから秋のコスモス畑まで外出先も工夫し施設内にも季節を感じていただけるように工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中、外周を山茶花と利用者が植えたパンジーの花々に囲まれた中に施設があります。殺菌徹底消毒、時間をかけてしっかり自力で完食する食事、レクでの体操や元気な声出し、細やかなバイタルチェックで変化を見逃さない工夫などで、近年、病氣入院や風邪をひく利用者がいないことが自慢です。地域の祭りとコラボして3年目になる秋祭りは、250人程が参加するなど年々盛会になり、歌や踊り、食べ物のふるまいなどで楽しい交流の輪が広がり、地域のセンター的な役割を担いつつあります。職員の定着も高く、またベテランの管理者のもとで、しつこく教育の徹底が図られているため、施設は今、成熟期にあると言えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼職場会議にて唱和確認している。	法人理念のほかに「笑顔の見えるケア」を職場理念としていて、毎日の朝礼で唱和しています。職員が利用者を第一に思い、優しく丁寧に接しているため、利用者の笑顔が絶えず、理念の浸透が充分できていると管理者は感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設の行事等において声かけし参加していただいている散歩時等に積極的に声かけしている。又お祭りにも参加している。	自治会に加入し回覧板も廻ってきていて、近所からは差し入れもあります。本年度からは中学生の福祉体験を受入れ、彼らからの感謝の手紙は職員に大きな励みになっています。地域の祭りとかラボして3年目になる秋祭りも年々盛況で、地域のセンター的な役割を担いつつあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時又は訪ねてこられた地域の皆さんに相談いただいたり、地域資源の活用を伝えたり、中学生の職場体験を受け入れたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常に施設の運営、状況については報告をし又ご意見をいただいている。	運営推進会議は2ヶ月に1度、自治会長、民生委員、市担当者、地域包括、家族代表の構成で開催しています。会議後開催したクリスマス会は利用者への理解を深める機会となりました。会議は有効な情報交換の場として、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、自治会、包括 民生委員に協力をいただいで良い関係を築いている。	運営推進会議には市担当者、地域包括が毎回参加し、案内状や会議議事録は出向いて手渡しするなど、積極的な取り組みがあり協力関係が築かれています。毎月介護相談員の訪問があり、利用者の話に傾聴し、節分時の来訪には行事に参加するなど頼もしい存在です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議にて研修掲示により喚起	「身体拘束ゼロ宣言」をしていて、玄関の施錠はありません。本部でのリーダー研修を受け、内部研修に繋げて職員の意識統一を図っています。毎日の朝礼でも身体拘束について伝達し合い、無意識のスピーチロックや行動抑制の減少を目指しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて共有、朝礼義にも常に確認、認識の共有		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて共有事例検討している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項、契約書の読み上げをし、理解納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方にケア契約書を渡す時に意見交換をし毎日のケアにて取り組みしている。	運営推進会議の家族代表や面会時の家族から、薬の処方や医療連携について意見や要望が聞かれています。行事には全家族が参加し、利用者・家族・職員が一体化した楽しみの集いとなっています。家族同士の関係も発展し、安心に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼ミーティング等で意見交換している。	月1回の職員会議では全員が意見を出すのが恒例であり、また、研修ノートでも勤務シフトや行事への意見・要望が言える機会があり、吸上げる仕組みがあります。年に1度の個別面談があると共に、職員同士の気付きを、その場で言いあえる関係も出来ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。希望休有給の取得に努め残業がないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場研修、勉強会への参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣同業者との交流、内覧会に積極的に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの読み込みをして職員同士で確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的に声かけし、本人家族が困っている事に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題点があれば朝礼時職員同士意見を出し合う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	散歩に行き近所の方と話をしたり花に水をやったりして共通の話題を作っていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なじみの方、家族に来ていただき共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設においてはいつでもご利用者の回りの方に来ていただける状態にしてありなじみの方とご利用者が途切れないように支援している。	家族の訪問が頻回にあり、一緒の外出も盛んに行われていて、買物や外食を楽しんでいます。週に1~2回フィットネスジムに通ったり、また、ショッピングモールで買物を希望したり、新聞購読をする利用者もいて、社会参加への支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にご利用者同士の関係は職員の頭の中にはいつているので、孤立しないように支えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常に関係が終わっても電話をいただいたり紹介いただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中に希望などあれば記録に残しておく出来る事ならば意に沿うように努める。アセスメントシートフェイスシートの確認会話の中で把握して朝礼等で共有	入所前には家庭に向いて生活史や家族観などのバックグラウンドを体感し、思いや暮らし方の希望を把握する努力をしています。購読している新聞で見たフィットネスに興味を示し、家族と相談の上ジムに行くことが叶ったことなど、意向が反映された好例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートフェイスシートの確認会話の中で把握して朝礼などで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼、夕方の引き継ぎ時に共有し状態把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	機会を設けて話し合い等を行うようにする。必要に応じ家族、ドクターにも相談する。	年に2回、モニタリングをし、全員でカンファレンスを行い、作成担当とケアマネージャーが「施設サービス計画書」と名付けられた介護計画書を作成しています。時にはサービス会議に参加する家族の意向も、可能な限り吸上げられたプランとなっています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に記入し朝礼時、夕方の引き継ぎ時に情報の共有をし実践する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者が常に良い状態でいられるように他の部署とも連絡を取り柔軟な対応をする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園、大型スーパー 町内の御宮ボランティア等を活用し豊かな生活が出来るように工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に適切な治療が受けられるよう、往診医、受診医共に連絡を取り適切な支援をしている。	以前からのかかりつけ医には家族の介助を原則としていますが、緊急時には職員が支援しています。協力医は24時間対応で、月2回の往診もあるため主治医変更した利用者も多くいます。今年度から週2回訪問看護が始まっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月曜、木曜に来施、お互いに協力し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医をとうし医療機関とは情報交換し相談に乗っていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に医療機関、家族とも連携を取りご利用者の状態を共有できるようにしている。、又重度化になる前の段階で話し合いをしている。	かなり以前に看取りが2件ほどありましたが、現在重度化への取り組みもありません。今後、ターミナルケアは原則として行う予定はありませんが、医療連携などでの終末期の在り方については模索を続けていく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法は常に研修しており解りやすい位置にはっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の元自治会の協力も得て防災火災訓練を定期的に行っている。	年2回、防災訓練を実施しています。内1回は消防署の立ち合いの下で行われ、防災意識の高揚に努めています。夜間想定避難訓練を次回計画し、少人数対応での取組みを予定してします。備蓄3日分と防災頭巾、ヘルメットを備え有事に備えています。	AED講習会開催などで地域へ来訪を呼び掛け、訓練参加を叶えて協力関係がより堅固に築かれることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー確保人格の尊重をして、問題が起きた場合には朝礼時共有対応している。	名前には、さんづけを基本にしていて、常に利用者の尊厳に配慮することを心がけています。機能維持のためにも、時間がかかっても出来ることは自分でやらせよう方針で、真の人格を尊重した取り組みを行っています。本部接遇マナー研修は年1回あり、内部研修で共有化しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望表出ができるようによくご利用者の話を聞き自己決定出来る機会を沢山作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、散歩、アクティビティー、起床、食事許す限り希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	じぶんで出来る決定は自分でしていただきその人らしくお洒落や身だしなみが出来るようにしていく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しく出来るよう時に意見を聞いたり試食していただいたりしている。	購入先を駆使し新鮮な食材を少しでも豪華にという心配りが、彩り鮮やかな食事に昇華しています。週1回は刺身もあり、時にはメロンも提供され、利用者最大の楽しみである食事の充実ぶりから、風邪をひく人もいない健康生活に繋がっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活管理表にて把握、変化がある時には医師と相談個々にあった対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをし汚れにおいがないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活管理表にて健康状態を把握して排泄リズムを確認し支援している。	自力で排泄できる利用者が多く、半数以上は日中、布パンで快適に過ごしています、脳梗塞での入院から帰所後、繊細な見守りで自立排泄が叶った例もあります。自力歩行が難しい利用者をトイレへと歩行介助する姿も視認しました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を毎日し、食事的には繊維質の物を取り、乳酸菌等も取っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日やタイミングは、常に柔軟に対応している。場合によっては、清拭、足浴をしている。	殆どの利用者が2日に1度の入浴していて、外出の多い利用者の毎日入浴も叶っています。マンツーマン介助であるため、心が開いた利用者の意向や思いが聞けています。2人毎に湯を張りかえ、足拭きマットも個別対応で水虫予防するなど清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に睡眠が取れるよう日中、アクティビティ、散歩を取り入れた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止に努め体調変化に注意し的確な服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、洗濯干し、たたみ、生け花、掃除その人の楽しみ、役割を持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。ドライブ、花見、イチゴ狩り大手スーパー、公園等四季を通じ外出支援している。	食材の買物に同行したり、散歩コースにある神社で参詣するなど日常的な外出支援がなされています。ドライブでは、フラワーパークでの花見、苺狩り、回転寿司などに出席して、特に花鳥園で鳥たちを愛で、バイキングで舌鼓を打った楽しい一日は印象的です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不穩になる人に限り所持、		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかかってきたり、かけたりし、手紙をいただいたり出したりすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を開け風を入れたり季節の物を飾ったりして過ごしやすい空間作りをしている。	天井の自然採光が特徴で、柔らかく穏やかな空間に、利用者とデコレートしたクリスマス飾りが季節を演出しています。温度湿度計で管理され、毎朝の掃除・換気と次亜塩素酸噴霧器での頻回な消毒で快適に仕上がった環境のなか、洗濯物を畳んでいる利用者の姿がありました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室での語らい、居室で新聞を読んだり、雑誌を観たりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を身近におき又季節を感じられるように工夫したりしている。	カーテン、エアコン、クローゼット、洗面台が備えついで、ベッドは馴染みのものを持ち込んでいます。畳マットで和風の部屋作りをしたり、季節の飾りを壁にかけたり、また筆筒、テレビ、家族写真や仏壇を持ち込んで生活感を楽しんでいる利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安全に配慮し怪我のないよう自立出来るように配慮している。		